

災害弱者への対応を

鳥羽で防災セミナー 講演と避難道具体験

災害弱者への対応を

鳥羽で
防災セミナー
講演と避難道具体験

【鳥羽】観光地のバリアフリーに取り組む鳥羽市のNPO法人伊勢志摩バリアフリーセンター（野口あゆみ事務局長）は十五日午後、同市大明東町の鳥羽市大明東町の鳥羽商工会議所で

羽商工会議所で、バリアフリー防災セミナーを開いた。福祉関係者ら三千人が参加し、講演会や災害時の避難に役立つ製品に触れた。

講演会は、沖繩県のNPO法人バリアフリーネットワーク会議の親川修代表が「逃げるバリアフリー」と題して講演。

親川代表は、聴覚に障害のある人に避難放送は届かないなどの例を挙げ、「安心と安全は皆さんに平等でなければならぬ」と述べた。

高齢者や障害者など災害弱者が過ごせる避難所の必要性についても提言した。

続いて参加者は、車いすに柄を付けて人力車のように引く「ジンリキ」や背負った時に両手が見える「おんぶらっく」、専用カラーペンで書いた文字が光り、夜間でも利用できる「ルミパッド」など、避難グッズを体験。

「ジンリキ」で電動車いすを引っ張った参加者は「思ったより力がかからない」と、話していた。

野口事務局長は「災害への意識を高め、災害弱者へ

の対応をしてほしい」と話した。